



20190615

2018 年度事業報告書

特定非営利活動法人エフエムわいわい

Nonprofit Organization FMYY(En)

Organización sin fines de lucro FMYY(Es)

Tổ chức NPO FMYY(Vt)

特定非営利活動法人エフエムわいわい 2019 年度事業計画

◆活動方針

2019 年度は FMYY 変化の年となる。6 月末に完了する配信方法の変更がひとつの変換点となるのはもちろん、FMYY がめざすものや今できること、あるべき組織の形を見直す一年にする。

2015 年度地上波終了が決まり、それによって FMYY の活動自体が途絶えてしまわないようにと、この 3 年間それぞれができることをできる形でがむしゃらに活動を続けてきた。配信方法は、現状の運営体制としての最適化が進んでおり、場としての力も落とすこと無く、新しい顔ぶれも迎えつつ、小さな声を伝えるコミュニティメディアとしての活動を続けている。災害地の被災者支援、防災力強化事業も特にインドネシアで実施するプロジェクトは、現地でも信頼性の高い事業として遂行している。一方で 3 年間で積み残してきた課題がある。特定の個人に負担がかかりがち、活動がわかりにくく支援者とうまくつながれていない、などだ。まだ広く市民によって運営されているとは言い難く、このままでは活動現場の疲弊を招き、団体自体の持続可能性は下がるだろう。

今年はこれらの課題を解決すべく、上半期を使い中長期ビジョンを明確にし、下半期には実務に落とし込んでいく。特にチームとしての動き方を再考する、FMYY 自体の発信力を上げていくなど、運営上の課題解決に直接アプローチしていきたい。

震災から 25 年の年を迎える。FMYY が掲げる「コミュニティメディアを活用して、声なき声を社会に伝えるとともに、社会の寛容性と多様性を促進する」という大きな活動理念はまったく揺らぐことはない。むしろその団体の幹が、先々まで行き渡るよう内部の変革も起こしていきたい。

I 事業

(1) 多文化共生のまちづくりに資するコミュニティメディア事業

ア) 発信

① 番組の配信形態について

FMYY は開局当時と同様、様々な人たちの技術支援でインターネット配信（サイマル放送）を行ってきたが、2019 年 6 月をもって完全休止する。FMYY のホームページでも掲載しているが、現在のシステムが 2020 年でサポートを終了、システム刷新への道は取らなかった。

7 月からのサイマル放送休止にあたり、ラジオ終了時と同様、毎日聞いているリスナーに対して心痛む思いはある。より多くの方に FMYY のきき方を伝えることに力を注ぐ。WMIBA からアーカイブでも使用許可の楽曲提案があったことは、深く感謝するところである。

FMYY の聴き方については、ホームページからの視聴、ポッドキャストや YouTube で可能であり、ポッドキャストアプリで、番組掲載のお知らせや番組連続視聴も可能。YouTube での Live 配信も継続予定。

② 配信番組 (2019 年 4 月～)

配信番組は、FMYY 制作番組のみとなる。新規エピソードの制作がないのは長田今昔物語 (2019 年 1 月終了) だが、アーカイブとしてサイト上で聴取可。

③ 多様性の発信イベント

開催日時	名称
4/29	第 15 回長田の園遊会花水木まつり
7/17・18	夏越ゆかた祭 ゆかたでナイト 2019
8/3・4	大国公園なつまつり
10/13	第 16 回輝け！集まれ！ながたっ子祭
11/2～10	第 4 回下町芸術祭
11/24	第 25 回一七市拡大版 2018
1/17	第 21 回 1.17KOBE に灯りを in ながた

* 実行委員会に参加、地域の多様性・阪神・淡路大震災から生まれた知恵の継承を提案。

(2) 災害の被災者支援・防災力強化事業

ア) 防災力強化海外事業

① インドネシアでの災害ラジオを活用した地域防災力強化

2018 年度に引き続きインドネシアで JICA 草の根技術協力事業「コミュニティラジオを活用した官民協働の地域防災力強化事業」にインドネシア・コミュニティラジオ協会など現地パートナー団体とともに取り組む。

② インドネシアの災害被災地での災害エフエム開設による救援活動

ジャパンプラットフォーム事業として、2018 年 9 月末にインドネシア・ロンボク島で発生した地震・津波の被災地でも BHN テレコム支援協議会、インドネシア・コミュニティラジオ協会と協働で災害ラジオ局の開設支援に 2018 年度同様に取り組む。事業期間 2019 年 2 月から 2019 年 5 月まで。

③ 世界コミュニティラジオ放送連盟アジア太平洋地域 (AMARC Asia Pacific) との連帯

AMARC の会員として、地域社会の課題解決に取り組みコミュニティラジオ／コミュニティメディア活動の普及、経験共有に取り組む。

イ) 防災力強化国内事業

① 神戸市危機管理室との連携

2019 年度は FMYY での外国語番組の重要性の認知・周知に特化した活動を行う。

② 神戸情報大学院大学とのアプリ開発

2017 年度の開発開始となったアプリについては、今後も協力体制をとっていく。

③ 人と防災未来センターに臨時災害 FM 展示・紹介コーナーの設置を提言していく。

ウ) 国内外共通事業

① 9 月 4 日～7 日第 9 回「東アジア包摂都市ネットワークワークショップ」@台湾
「インクルーシブ都市のための社会革新～外国人との共生に向けた地域づくり」

②2020年1月24日・25日・26日「世界語り部フォーラム(仮)」兵庫県公館、人と防災未来センターなどで、公開フォーラムとワークショップ、日本の被災地語り部集会。

(3) 多文化共生のまちづくりに資する場づくり、研究、教育、啓発事業

ア) 教育現場との連携

①大学・高校・中学・小学校・研究者(国内外)

形態	大学・研究者(国内外)
インターン受け入れ	神戸学院大学・京都外国語大学・ソウル女子大
講義(非常勤講師)	神戸親和大学・神戸常盤大学・神戸大学・兵庫県立大学・同志社大学・大阪市立大学・関西学院大学・兵庫高校・神戸市立だいち小学校(教職員)
フィールドワーク／研修	JICA 中南米・ムバンチョンビンラチャパット大学・チュラロンコン大学 神戸学院大@インドネシア・多言語センターFACIL@インドネシア

・5月28日から10月7日までの関西学院大学・神戸大学・兵庫県立大学・神戸常盤大学以上750名前後に「阪神・淡路大震災の記憶継承についてのアンケート調査とその解析ならびに論文発表・番組制作予定。
・5月15日から6月15日まで、神戸40人とアフリカ・ルワンダを中心とする27カ国の60人に対して、神戸とアフリカの繋がりに対する意識向上を目的とするアンケート調査

II 管理・運営

(1) 団体の運営体制

基本的な体制は2018年度を継続、コミュニティメディア事業としてはボランティア団体として運営、またJICA事業とゆるやかに連携し、管理運営についての経費などは経費の案分負担で支えあっていく。事務局の実務に育休中であつた大川が時短復帰する。

外部コンサルタントを招いた中長期ビジョンの策定やそれに基づいた実務体制の見直しなど、持続可能性を高める取り組みを進める。

(2) 会計

会計処理担当スタッフのパート雇用について、前年度の実働を元にJICA事業とコミュニティメディア事業等で配分する。

(3) ファンドレイジング

① 会員・支援者

支援者に対する情報発信力を上げる。特に今応援してくれている支援者へのわかりやすくかつ定期的な情報発信を行う。その上で、理解者を増やす取り組みと、会員などの支援者を増やす取り組みを行ってきたい。

② 寄付

積み残しである新たな支援方法の確立を進める(コミュニティADや、個々の番組や活動を応援する仕組み、スポンサーのマッチングなど)。Webサイトからのクレジットカード払いは新規システムを導入予定。

以上